## 仲仁良」遺跡の調査

vol. 218

代、 策事業に伴う調査です。 業と県道山田栗源線交通安全対 新庁舎(現山田支所)の建設工 掘調査を行いました。 遺跡です。 m 小見川駅から南へ6㎞、標高43 の台地上に所在する縄文時 仲仁良Ⅰ遺跡は、 旧山田町旧庁舎跡地整備事 奈良・平安時代、 これまでに3回の発 JR成田線 中近世の 旧山田町

たと考えられます かりました。 縄文時代は、 狩猟の場として利用して 住居跡がな 落とし穴が見つ いの

きる人が集落に居たことが分か ていることから、 す。その文字は、「来」「二」「山」 文字を書いた墨書土器がありま 土した遺物には、 7世紀の終わりごろから9世紀 跡や掘立柱建物跡が見つかり、 転用した須恵器の破片も出土し ていたことが分かりました。 の終わりごろまで集落が営まれ 「上」「満」「成」 などです。 硯に 奈良・平安時代は、 読み書きので 土師器に墨で 竪穴住居

出現することから、 集落が7世紀の終わりころに 律令制が整

> のかもしれません。 ていました。 更新や班田収授制で税を確保し を原則とし、 られます。律令制では公地公民 戸籍作成に使用した文字だった い新たに開発された集落と考え 出土した墨書は、 6年ごとの戸籍の

> > です。

馬の埋葬土坑はさらに増えそう

は調査範囲の外へ続い などが出土しました。

この柵列 ており、

は、

中近世に馬の放牧をした牧

遺跡からやや離れた北西に

す。 び、 横木でつないだ柵です。 営まれていた痕跡は希薄です。 器などの遺物は少なく、 埋葬土坑が見つかりました。 ねたものです。上部構造は杭を 溝跡と柵列は、 中近世は、 柵列は、 遺跡を整然と区画してい 溝がき ひょうしょ 杭を立てる穴を連 東西南北に延 棚で 集落が 馬の 土 ま

> 利用の変遷や歴史の一端を考察 部にとどまっていますが、

する可能性がありそうです。

これまでの調査は、

遺跡の

土地

の区画は、

馬の飼育などと関係

が広がっていました。

柵列など

する手がかりになります。

生涯学習課

なって5基が見つかり、 馬の埋葬土坑は、 柵列と重 骨や歯

調査区空中写真(南側半分)

馬の埋葬十坊



墨書土器[来]